

## 第0講 英語の文型

英語がどんな言葉なのかを知ろうとすると、日本語と比べてみると面白いことが見えてきます。次の日本語を考えてみましょう。

昨日ゴジラはミニラと公園でテニスをした。

日本語は並び方なんてどうでもよいので、動詞さえ文末に来ればこんな風にも言えます。

昨日ミニラとテニスをゴジラは公園でした。

公園でテニスをミニラと昨日ゴジラはした。

ゴジラは公園で昨日テニスをミニラとした。

どうしてかと言うと、日本語は膠着語と言って、助詞で名詞をつないでゆく仕組みもっています。言い換えると、日本語の並び方がいい加減でも間に合うのは、「て、に、を、は」のお陰なわけです。小学校の時に習った「文節」を覚えてますか？文を意味の最小単位に区切ったものでしたネ。「ネ」を入れてみると簡単に文節に区切ることができました。

昨日ネ ゴジラはネ ミニラとネ 公園でネ テニスをネ したのヨ。

こんな性質は、アルタイ語族の特徴らしいのですが、じゃあ日本語はアルタイ語族かというでもない。どうも語族では分類できない様な変な言葉らしい。こんな日本語に生まれてこの方どっぴりつかって僕らは生活してきたのですから、英語も日本語と同じじゃないかと錯覚してしまうんですね。これを英語にしてみましょう。

Godzilla played tennis with Minilla in the park yesterday.

英語も日本語と同じように並び方がいい加減でいいのでしょうか。もし並び方なんかどうでもよいのであれば、次の様な英語も可能なはずですよ。

Yesterday with Minilla played Godzilla tennis in the park.

Played with Minilla yesterday tennis in the park Godzilla.

Tennis in the park with Minilla yesterday Godzilla played.

実は、これじゃ駄目なのです。英語には、日本語の「て、に、を、は」に当たるものがありません。だから、並び方が変わってしまったら意味が通じなくなるのです。試しに助詞を削ってみると、英語ってどんな言葉かを少しは実感することができます。

テニス 昨日 ゴジラ 公園 ミニラ した

「て、に、を、は」の付いていない名詞を見ても、何かなんだかさっぱり分からない。じゃあどうするのかと言うと、英語は語の並び方で「て、に、を、は」を表現する。最初の名詞は「～は」、次に「それがどうした」、3つ目に来る名詞は「～を」と言った具合です。つまり、英語は語の並び方が大切なわけですね。

### 0-1 僕ら日本人のための5文型

日本語は、文が長くなればなるほど、語の並び方の組み合わせには際限がありません。では、英語には一体いくつくらい並び方があるのでしょうか。実はたったの5つだけです。およそ人の頭に浮かぶありとあらゆる伝達内容が全て、この5つで表現できるのです。スゴイでしょ。

1. S+V
2. S+V+C
3. S+V+O
4. S+V+O+O
5. S+V+O+C

見覚えがあるはずですね。そうです、5つの文型です。でも、1学期の初めのところでちょっとやるだけで、あとはなかなかお目にかかりません。

**解説** なぜ文型の説明は最初のちょっとだけなの？

答えは簡単で、英語の先生も5文型をどう扱って良いか分からないから。確かに、助詞のない英語は、語順が一番大切。その語順を説明している「5文型」を粗末には扱えない。でも、実際には英文全てを5つの文型に分類することができるわけではない。厄介な質問をされては先生もたまらないので、上っ面をなでるだけでさっさと終わらせるのでしょね。酷いになると、5文型なんてカビの生えた饅頭みたいなものでもう古い、と言う。今では日本でしか教えていないのだからもう止めましょう、と投げ出す。考えてみれば、語の並び方のいい加減な日本語を操る日

本に、5文型が根強く残っているのは当然でしょ。だからと言って投げ出しちゃいけない。英語の語順についてのルールは、僕ら日本人の為にあるようなものなのだから。いずれは文型を意識しなくても英文が読めるようになる。でも、それまでは日本語と英語の語順の差異をちゃんと把握することは極めて有効な方法です。ここで藪下が提案するのは、そんな僕ら日本人のための5文型です。

ところで、藪下が「S」を見ると思い浮かぶのは「S字コーナー」、「V」は「V型6気筒エンジン」（車が好きなものだから、お許しを）、「C」は「ビタミンC」、「O」は「ダイエいの王監督」くらいなものです。文型をSVOCで表現するやり方は、英語を母国語とする人の為のもの。当然、僕ら日本人には「S = Subject (主語)」なんて連想は、すぐには働かない。使い勝手が悪いこと甚だしいわけです。そこで、慣れるまではSVOCを次の様に言い換えてはどうでしょうか？

S = 主題は何？  
 V = それはどうした  
 O = 何を (IO = 誰に DO = 何を)  
 C = どの様に

と言うことは、5つの文型をこれで言い換えると次のようになります。

1. 主題は何？→それがどうしたの
2. A=B
3. 主題は何？→それがどうしたの→何を
4. 主題は何？→それがどうしたの→誰に→何を
5. 主題は何？→それがどうしたの→何を→どの様に

第2文型が「A=B」になってますね。これについては先で説明します。「英語が読める」ための因子には色々あるのですが、動詞を見たときその直後の語順が分かることが何よりも大切です。だから、5つの文型をただの語の並び方と考えるだけではあまり役に立ちません。大切なのは動詞の直後の語順です。

0-2 主題は何？→それがどうしたの

She	smiled
The train	leaves
The meeting	ended
主題は何	それがどうした

sweetly  
 at eight thirty  
 at three in the afternoon  
 副詞

彼女はにっこりと微笑んだ。  
 その列車は8時半に出発します。  
 その会議は午後3時に終わった。

5つの並び方の中で一番短いタイプです。短い分、言いたいことが相手に伝わりにくくなります。それを補っているのが右にはみ出している副詞です。藪下は文型の部分を四角で囲むことにしています。これを見取図と呼んでいます。この四角の中に5文型の構成要素が入ります。そしてこの部分が英文の中心的役割を果たしているので主、右にはみ出している部分はオマケの副。副詞と呼ぶのはそう言うわけです。副詞は大体次の様な内容を表示します。

- ・いつ？
- ・どこ？
- ・どのように？

副詞の形の上での特徴は、大半が「~ly」で終わるか「前置詞+名詞」のセットになっているかです。前置詞とは「名詞の前に置く詞（ことば）」の意味です。だから直後に名詞が来てますね。

sweetly	-ly	どのように？
at eight thirty	前置詞+名詞	いつ？
at three in the afternoon	前置詞+名詞	いつ①？ ②いつ？

ここに出てくる動詞の特徴は、その動詞の影響が他人に及ばないことです。つまり、この動詞は主題が自分で勝手にやってるだけで、相手を必要としないわけです。彼女が一人で勝手に笑っているだけだし、列車は放っておいても午後3時になれば勝手に出発します。会議が午後3時に終わったからと言って、誰も何の影響も受けてはいないわけです。その意味で第1文型で使う動詞は自己完結型だと言えます。自己完結型なので「自動詞」だと覚えてください。

The meeting	has finally ended	now
主題	どうした	副詞

上の例文の様に、動詞は1語だけとは限りません。表現したい時間によっては2語以上になることもあります。意味のかたまりをざっくりと大きく区切るのがコツです。

She	is	a translator
She	is	the one and only
She	is	beautiful
She	is	my wife
She	is	twenty years old
She	is	with me
She	is	in good health
She	is	with a weight of 40 kg
She	is	watching TV
She	is	loved
A	=	B

for me

←これは米語ではあまり使わない表現

by me

彼女は翻訳家だ。  
 彼女は僕にとってかけがえのない人だ。  
 彼女はきれいだ。  
 彼女は僕の嫁さんだ。  
 彼女は二十歳だ。  
 彼女は僕と一緒に暮らしている。  
 彼女は体調が良い。  
 彼女は体重が40kgだ。  
 彼女はテレビを見ている。  
 彼女は僕に愛されている。

「さよなら三角、また来て四角、四角は豆腐、豆腐は白い、白いはウサギ、ウサギは跳ねる、跳ねるはカエル、カエルは青い、青いは葉っぱ、葉っぱはゆれる、ゆれるはお化け、お化けは消える、消えるは電気、電気は光る、光は親父のハゲ頭」っていうのを聞いたことはありませんか？「ゆれるはお化け」のところがちょっと納得できませんよね。これは一種の連想遊びで、小学校の時に藪下も歌っていた覚えがありません。よく見ると、全てが「A=B」でつながっていますよね。「四角=豆腐」「豆腐=白い」「白いはウサギ」・・・という具合です。

第2文型は、上の連想遊びの「A=B」の様に、ある主題の状況を人に説明するための文型です。つまり、「AはBと言う状況にあるんだよ」と言っている。この文型で使う動詞の代表が be 動詞です。

第2文型の動詞も、第1文型と同じように主題について述べているだけです。主題の特徴を説明しているだけなので、主題が別の何かに働きかけることは決してない。当然、他人にその影響が及ぶわけではない。主題自体のことを述べているので、やっぱりこれも自動詞です。

**解説** 「白いはウサギ」って変じゃないの？

そうですね。正確には「ウサギは白い」じゃなきゃいけません。上の連想遊びは尻取り歌の体裁をとっているのだから、「豆腐は白い」→「白いはウサギ」・・・にしなくてはならなかった。主語になれるのは実体としてのウサギで、そのウサギの属性が白いのはずですよ。これが逆転しては論理的におかしな文になります。

A (実体) = B (属性)

アリストテレスの言葉を借りると、主語になることのできるモノが「実体」で、実体に特有の性質が「属性」なわけです。彼は属性を次の10項目に分けて説明しています。

- ・それが何であるのか (所属)
- ・どのくらいあるのか (量)
- ・どの様なものであるのか (性質)
- ・どの様な関係にあるのか (関係)
- ・どこにあるのか (場所)
- ・いつあるのか (時間)
- ・どの様な状態であるのか (状態)
- ・何を持っているのか (所持)
- ・何をしているのか (能動・進行)
- ・何をされているのか (受動)

実は、実体と属性とを結ぶのが be 動詞の役割なのです。だから「実体=属性」は「A is B」と表現することができます。上の例文は、上から順に実体である She の属性を表現しているわけです。さて、「ある」や「いる」に色が付いてますね。「AはBである」には「AはBと言う状況で存在している」の意味が含まれています。てことは、第2文型は、目に見えるモノ、見えな

いモノも含めて、存在すると思われているもの全ての状況を説明する文型だと言っても良いでしょう。もし、アリストテレスの「属性」に興味があれば、範疇論（カテゴリー）を読んでみてください。

**解説** She is with me.は第1文型じゃないの？

どちらでもかまいません。自分が一番納得しやすい方を選んでください。そもそも「文型」は英語を読みやすくするための小道具です。だから、何文型かで悩むこと自体がナンセンスですよ。さて、この英文を第1文型だと考える根拠は、大体次の様なものです。

She	/	is		in the kitchen
S	/	V		M (修飾語句)

彼女は台所にいる。

She	/	is		in good health
S	/	V		C

彼女は元気である。

in the kitchen も in good health も両方とも「前置詞＋名詞」なのですが、kitchen は目に見える場所、health は目には見えない状態ですね。だから、品詞の分類上 in the kitchen は場所を表す副詞、in good health は状況を表す形容詞だと考えます。次の様な変形が可能なのがそれを裏付けています。

She is **in the kitchen**.  
 → She is **there [here]**.  
 → **Where** is she?

She is **in good health**.  
 → She is **well**.  
 → **How** is she?

ここで、「she = 性質の形容詞」はしっくりゆくのですが「she = 場所の副詞」はちょっと無理がある、と考えたのでしょう。「人」と「場所」とが**等値関係**にあるのは確かに苦しい。そこで、be 動詞には「A=B」のように主語Aとその**性質B**とをイコールでつなぐ働き以外にも、「存在する」と言う意味があるのだと考えた。そう考えれば次の様な英語も説明がつくわけです。

God	/	is
S	/	V

神は存在する。

でも、わざわざ話を複雑にする必要はないですよね。さっきのアリストテレスの「**実体＝属性**」を思い出してください。アリストテレスは実体Aと属性Bとをかなりゆるやかにつなげていますよね。現実の言葉の世界はこのくらい大らかじゃないのか、と藪下も考えます。「A=B」のイコールを厳密な品詞分類に基づいた**等値関係**と見るのではなく、もっと大雑把にAとBをつないで「AはBと言う状況にある」の意味を表現しているんだと割り切るわけです。だったら、先の2つの英文もほとんど差異はなくなる。こう考えることで何か不都合が生じるわけではありません。さっきの「白いはウサギ」も、論理的には変な文かもしれませんが、僕らはそんな変な日本語を実際に使っているわけです。これが言葉の世界でしょ。

彼女は台所にいる状況 (場所)  
 彼女は健康な状況 (状態)

「じゃあ、神は存在するはどうするのか」って？僕ら人間抜きに神を論じても仕方がない訳ですから、次の様な英文の省略形と捉えてはどうでしょうか？

God	/	is		[by us]
A	/	=		B

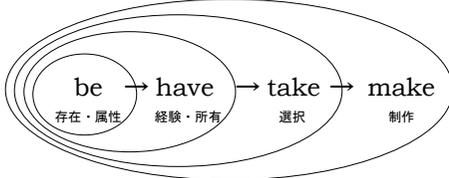
神、我らとともにいます。

「さよなら」に当たる英語は「神、汝と共にあらんことを」の意味の God is by you. が元になって good-bye が生まれたと言われてますよね。もっとも、祈願文では動詞は原形になるので、God be by you. (または God be with you.) にしなくてははいけないのですが。

**解説** 第2文型の特殊性

ちょっと話が脱線しますが、もう少し別の観点から第2文型のことについて考えることにします。さて、人間はお母さんの母胎（おなか）からオギャアと産まれるとすぐに be 動詞の生活に入ります。つまり、この世に**存在**し始めるわけです。産まれると目方を量られ（**量**）、名前をもらい（**所属**）、戸籍に登録されます（**関係**）。周りは、やれ口元は親父に似ているだの、気の強

さは母親ゆずりだのと騒ぎ立てる(性質)。これは第2文型「A is B」を使って表現できる**属性**ですよね。この**存在**と**属性**は、赤ん坊が自ら望んで手に入れたモノではなく、彼・彼女の意図とは全く関係なく勝手に与えられたものです。反抗期になると「なんで俺を産んだんだよ！」なんて言う手合いが少なからずいることが、そのことを裏付けていますね(ごめんなさい、藪下も身に覚えがあります)。そのうちに色々なことを経験したり色々なモノを与えたりして have の生活に移ります。こちら辺りから自我を意識し始める。そして、与えられた可能性を take するようになります。創造力を獲得すると今度は色々なモノを作り始める。これが make です。



\*この図は、吉野富士雄氏の「人間活動の広がり、静から動へのエネルギー使用の方向」を参考にしました。吉野先生のご活躍をお祈りしています。

この発想はアリストテレスの運動(動詞)の概念ととても良く似ています。彼は運動を「可能態(デュナミス)→進行態(キネーシス)→完了態(エネルゲイア)」の連続で捉えようとしています。これは人が何かを制作しようとする場合の手順なわけです。でも、人間の根元的な存在に根ざしているという意味で、be 動詞だけが特殊です。この様に、存在や属性は人間の力ではどうしようもない状況、運命的な状況を表現しています。だから第2文型は他の文型とはちょっと性質が違うわけです。藪下は「神的な第2文型」とか「運命の第2文型」だと授業では説明してましたね。

**0-4 A=Bの仲間① 「AはBのままだ」**

be 動詞「A=B」の仲間には「AはBのままである」「AはBになる」「AはBの様に見える」の3つがあります。仲間である証拠に、どの表現も be 動詞に置き換えが利くことです。つまり「A=B」でも表現できるわけですね。だから見取図は「A=B」になっています。

**0-4-1 「AはBのままだ」① (A stand B)**

She	stood	looking at him	←実際に立っている具体的 stand
The door	stood	open	
Her house	stands	on the hill	←ある状況に立っている抽象的 stand
He	stood	accused of murder	
She	stands	close to him	
A	=	B	

彼女は彼の方を見て立っていた。  
 ドアは開いていた。  
 彼女の家は丘の上にある。  
 彼は殺人罪で訴えられていた。  
 彼女は彼と親密だ。

**解説** accuse って何？

accuse は「**悪友**ずるい!と**告訴**する」と覚えてください。close-up は被写体に**近づいて**大写しにすることです。だから「close to 人」で「人と**近い**・親密である」です。stand の原義は「立っている」です。実際に人やモノが立っている場合だけでなく、ある立場、見解、状況に立っている場合にも用いる。これが「A stand B」です。

一番上の例文は、実際に彼女は立っている、ドアも横に寝かせてあるのではなく立ててある、でも4つ目は訴えられている状況に立たされ、最後のは親密な状況に立っているわけです。「立っている」には「しばらくそこを動かない」と言う意味がその裏にあります。だから、人がある立場・見解・状況に立っていることは、しばらくはその立場を堅持し、その見解を持ち続け、その状況を甘んじて受け入れることになる。つまり、これらの共通項は「AはBのままだ」なわけです。分かりにくければ「立ったままで動かずにいる」と考えてください。stand をちゃんと be 動詞に置き換えてみて、文が成り立つことを確認してくださいね。

目に見える stand	人・物が立っている
目に見えない stand	AはBのままだ

0-4-2 「AはBのままだ」② (A sit B)

She	sat	reading a book	for weeks
Her house	sits	on the hill	
The imported goods	sat	at the port	
A	=	B	

彼女は座って本を読んでいた。  
 彼女の家は丘の上にある。  
 輸入品は数週間その港に置きっ放しだった。

sit の原義は「座っている」ですね。これも stand と同じように、目に見える具体的な意味と、目には見えない抽象的な意味とがあります。具体的な意味の広がりには「人が座っている、物がある場所に位置している」。抽象的な意味の広がりには「座ったままで動かずにいる」、分かり易く表現すると「AはBのままだ」となります。建物がある場所に位置している場合は、stand と sit が両方とも使えるのが分かります。ここでも、ちゃんと sit を be 動詞に置き換えてみることに！

目に見える sit	人・物が座っている・物が位置している
目に見えない sit	AはBのままだ

0-4-3 「AはBのままだ」③ (A lie B)

She	lay	watching TV	all last night
He	lies	ill in bed	
Ireland	lies	to the west of Great Britain	in the factory.
A lot of machines	lie	idle	
The old castle	lay	in ruins	
A	=	B	

彼女は昨夜は一晩中横になってテレビをみていた。  
 彼は具合が悪くて寝ています。  
 アイルランドはグレート・ブリテン島の西に位置している。  
 工場にはたくさんの機械が使われなないままになっている。  
 その古城は荒れ果てたままになっている。

lie の原義は「人や動物が横になって寝ている」、「物が横にして置いてある」です。lie にも具体的な意味と抽象的な意味があります。「建物がある」の意味を表現したい場合には、stand, sit, lie のどれでも使えます。ただし、lie は「全体の中のどこに位置するか」を stand, sit よりも厳密に規定します。だから、例文には **to the west of Great Britain** (ブリテン島の西) が絶対に必要なのですね。lie は主に「町や国がある」場合に用います。「建物がある」と言いたい場合には、単に「丘の上にある」では全体の中の位置関係がハッキリしないので、かなり不自然な英語になります。

- Her house stands on the hill. (○)
- Her house sits on the hill. (○)
- Her house lies on the hill. (△)

次の様に、位置関係をハッキリさせれば自然な英語になります。  
 Her house lies on the hill **to the north of the town.** (○)  
 彼女の家は、町の北にある丘陵にある。

さて、目に見えない抽象的な表現は、「横になったままで動かずにいる」わけですから、やっぱり「AはBのままだ」です。こうして見てくると、立っとうが座っとうが寝っとうが、この3つは共通して「AはBのままだ」の表現に利用可能であることが分かります。振り返ってみると、それぞれの原義には3つとも「いる」「ある」が含まれていましたよね。このことは stand, sit, lie の3つが be 動詞の仲間であることを裏付けていますね。ここでも lie を be 動詞に置き換えて見てください。

目に見える lie	人・動物が横になっている 物が横にして置いてある・位置している
目に見えない lie	AはBのままだ

0-4-4 「AはBのままだ」④ (A stay B)

We	(will) stay	friends
The weather	stayed	fine
The long dress	stayed	in fashion
They	stayed	trapped
She	stayed	standing
A	=	B

forever  
for a walk  
  
in the cave  
in the corner

一週間晴天が続いた。  
ずっと友達でいようね。  
そんなロングドレスがしばらく流行していた。  
彼らは洞窟に閉じこめられていた。  
彼女は街角にしばらく佇(たたず)んでいた。

stay の原義は「移動せずにその場所に残っている・とどまっている」です。具体的な意味では「人がある場所にとどまる→滞在する・泊まる」となります。stay をこの意味で使う場合には第1文型をとりまします。「とどまる」の意味が広がって、「AはBの状態のままとどまる」→「AはBのままだ」の抽象的な用法ができあがりまします。

目に見える stay	人がある場所に留まっている・残っている
目に見えない stay	AはBのままだ

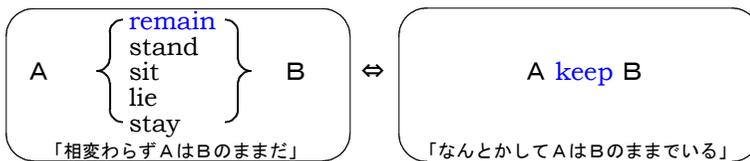
さて、ここまでのところで stand, sit, lie, stay の4つは「AはBのままだ」の抽象的な意味で使えることが分かったと思います。また、4つともBと言う状況がしばらく続くのですが、その状況が継続するのにエネルギーは必要ない。つまり、一生懸命にAがBである状況を保持しているわけではない。放ったらかしておいてもBである状況は続くわけです。この4つの代表が remain。だから、stand, sit, lie, stay を「AはBのままだ」の意味で使う場合は remain に置き換えることができます。

She stands close to him. → She remains close to him.  
The imported goods sat at the port. → The imported goods remains at the port.  
A lot of machines lie idle in the factory. → A lot of machines remains idle in the factory.  
The weather stayed fine for a walk. → The weather remained fine for a walk.

一方、エネルギーをかけてBである状況を一生懸命保持しようとするのが keep です。remain と keep とを比較すると次の様になります。簡単にまとめておきましょう。

She	remained	silent
She	kept	silent
A	=	B

彼女は無口な女の子だ。その時も相変わらず何もしゃべらなかつた。  
彼女は普段はとてもおしゃべりなのだが、その時は一生懸命しゃべるのを我慢していた。



**解説** Bの部分の語句にはパターンがありそうだけど？  
そうですね。Bの部分には次の様なものが良く来ます。

- ・形容詞
- ・名詞
- ・-ing
- ・-ed(etc)
- ・前置詞+名詞

実は、これは全部Aの様子を説明してる形容詞なのです。主語Aは名詞、名詞を飾るモノのことを形容詞と呼んでいるのですから当然と言えば当然ですね。アリストテレスはこの形容詞のことを属性と呼んでいたわけです。でも、「名詞」「-ing」「-ed」「前置詞+名詞」が形容詞になるなんて、ちょっと想像しにくいかもしれません。前置詞は「名詞の前に置く詞(ことば)」でしたね。

a night game ナイター（夜の試合）

僕らは「ナイター nighter」を「夜やる野球の試合」の意味で使いますが、これは和製英語。英語では night game と言います。all nighter なら、これはちゃんとした英語で、「夜通しやってる映画館」とか「一晩中 xxx をやる人」（ちょっとここでは書けません）などの意味で使います。night は歴とした名詞ですよ。それが game を飾る形容詞として使われているのが分かります。名詞は形容詞にもなるんです。

running Godzilla 走っているゴジラ

running は現在分詞で「走っている」の意味ですね。現在分詞は「動きのある形容詞」で、飾られる名詞（ここでは Godzilla）が何をしているのかを説明してくれています。

cheated Godzilla だまされたゴジラ

cheat は「ちいとばかし人を **だます**」と覚えてください。cheated はその過去分詞で「だまされた」の意味になります。fooled でもかまいません。エープリルフール (April Fool) の fool です。過去分詞も「動きのある形容詞」なのですが、現在分詞と違い、飾られる名詞が何をされたのかを説明しているのが分かります。分詞が名詞を飾る形容詞だと言うことが納得できましたか？

Godzilla on the hill 丘の上のゴジラ

英語が読めることの大切な要素の1つに、「前置詞＋名詞」の見極めがあります。ここでは「前置詞＋名詞」が形容詞の働きをしているわけですね。でも、日本語の訳語と比べてみると、形容詞の位置が逆になっているのが分かります。頭のデッカい E T は、重心が高い加減でとても安定が悪かった。逆にお尻のデッカい関取朝青龍は、重心が低いので安定してますね。英語の語句もこれと同じで、2語以上の長い飾りを名詞の前に付けてしまうと頭デッカいの E T の様に安定が悪くなります。そこで on the hill が名詞 Godzilla の後ろに回っているのですね。ま、「前置詞＋名詞」が形容詞になることが分かってくれたら OK としましょう。敷下はこれを「E T の法則」と勝手に呼んでます。覚えておいてください。B の所に来る語句のパターンはこの5つです。

**0-5 A=Bの仲間② 「AはBになる」**

「AはBになる」は、自然に起こる変化を表現しています。これは人間の力ではどうしようもない変化であることが多く、その意味で「運命の第2文型」です。分かりづらければ、「ゴジラはパイロットになった」と言うことは、「彼＝パイロット」なわけですね。内容に多少の（大きな？）違いはありますが、結果として同じ状況を説明しているのだと考えてください。さて、同じBになるにも、ずっとBのままなのか、一時的にBになっただけなのか、サッとBになるのか、ゆっくりBになるのかによって使える動詞が変わってきます。

**0-5-1 「AはBになる」① (A become B) 永続的な変化**

Godzilla	became	a pilot	these days to us all
It	became	warm	
The fact	became	known	
A	=	B	

ゴジラはパイロットになった。  
最近暖かくなった。  
その事実は僕らみんなの知るところとなった。

「AはBになる」の意味でほとんどの場合に使うことの出来るのが become です。ただ、2・3注意することがあります。

- ・一時的な変化よりもむしろ永続的な変化を表現するのに適している
- ・変化の過程ではなく、変化後の結果に重点が置かれる
- ・「AはBするようになる」は全くの別の文型で表現される

今の日本では年功序列・終身雇用の旧来型システムが崩壊し、1度就職した会社で定年まで勤め上げる人は以前ほど多くはない。でも、就職は永続的な変化とは言わないまでも、比較的長期間にわたって持続さ

れる状況が目前に生まれる。だから「パイロットになる」は「become a pilot」なわけです。また、「君は将来何になりたいですか？」の問に対して「パイロットになりたい」と答えたい場合には、  
I want to **become** a pilot. (△)

とは言わない。なぜなら、「将来何になるつもりか？」と言う問の中には「将来の目標に向けて今何をやっているのか？」の意味合いを含んでいるからです。つまり、この問は将来の目標までの過程が重視されているわけですね。将来の目標を実現するために今何もしていない場合は、答えに困ってしまいますよね。ならば、変化後の結果を重視する become を避け、be を使えばよい。  
I want to **be** a pilot. (○)

また、第2文型で表現できるのはAの属性であって、動作ではない。だから「僕は彼女と知り合いになった(知ることとなった)」と言いたいときには、第2文型ではなく第3文型を用いて表現する。

I	(came to) know	her.
主語	どうした	何を

come to は助動詞です。見取図では、助動詞は( )の中に入っています。助動詞 come to については先で説明します。

0-5-2 「AはBになる」② (A get B) 一時的な変化

Godzilla	got	angry	outside
It	got	dark	
Minilla	got	drunk	
Ayu and Kenji	got	married	
A	=	B	

ゴジラは腹を立てた。  
外は暗くなった。  
ミニラは酔っぱらった。  
アユとケンジは結婚した。

become が結果に重点が置かれた永続的変化だったのに対して、get は過程を重視した一時的な変化を表現するのが得意です。腹が立つのも、外が暗くなるのも、酔っぱらうのも全部一時的な状態ですよね。しばらくすれば平常心に戻るし、夜が明ければ明るくなるし、酔いも覚めます。ただ、結婚が一時的な変化かどうかは別にして、ゴールまでの過程が大切であることは納得できますよね。「結婚する」なのに、なぜ過去分詞の married なのかは、準動詞のところの説明します。今はそっとしておきましょう。ところで、be 動詞に置き換えてもちゃんと文が成り立つことを確認していますか？

**解説** become と get はそんなに違うの？

The leaves	became / got	red
The weather	became / got	warm
Godzilla	became / got	rich
Minilla	became / got	angry
A	=	B

葉が赤くなった。  
陽気が暖かくなった。  
ゴジラは金持ちになった。  
ミニラは腹が立った。

見れば分かる様に、上の例文の様な文脈では、become でも get でも使用可能です。ならば、become も get も大差はない様な気がして来ますね。どちらでも良いと言うことは、永続的変化と一時的変化の差異は無視できる場合がある。でも、話者や書き手が変化の過程を重視するならば get を、変化後の結果を重視するならば become を選択するはずですね。つまり、寒暖の差が徐々に大きくなって次第に葉が赤くなったと言いたいならば get を、結果として葉が赤くなったと言いたいならば become を使うわけです。ま、ハッキリ言ってしまえば、僕ら日本人にはここら辺の違いを実感として理解するのはちょっと難しい。ましてや、大学入試の英語でこまでは問われません。安心してください。

0-5-3 「AはBになる」③ (A grow B) (A turn B) 緩慢な変化と急激な変化

Minilla	grew	taller and taller	at the news
His face	grew	pale	
Her face	turned	pale	
Godzilla	turned	terrorist	
A	=	B	

ミニラはだんだん背が高くなった。  
 彼は青ざめた（彼の顔は青白くなった）。  
 彼女は青ざめた。  
 ゴジラはテロリストになった。

green、grow、grass は同語源の家族語です。green は萌え出る草の緑、grow は植物が徐々に成長する様、grass は成長する緑の草ですね。だから「AはBになる」で grow を使うと、成長する様なスピードでゆっくりとAがBに変化するときを使う。それに get や become に比べると、かなり硬い表現です。

一方、turn は「方向をかえる（方向が変わる）」が原義。水泳のターンを思い浮かべればすぐにわかりますね。Uターンも、Uの字をなぞる様に車の方向を変えることです。だから、まるで方向が変わる様に突然豹変する場合に使います。ところで、僕らは急激な変化になかなかついて行けない。人間の力ではコントロールできない変化を表現するのがこの turn です。だから色や天気が変わるときによく使います。逆に自分でコントロールできる感情や、努力によって達成できる裕福さには使えない。

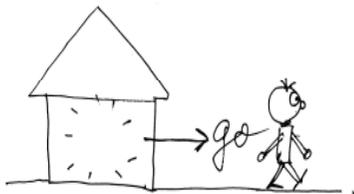
Godzilla turned angry. (×)  
 Godzilla turned rich. (×)

0-5-4 「AはBになる」④ (A go B) (A come B) 悪くなる変化と良くなる変化

Godzilla	went	{ bald mad blind deaf }
The eggs		bad
A	=	B

ゴジラはハゲた。  
 ゴジラはやけを起こした。  
 ゴジラは目が見えなくなった。  
 ゴジラは耳が聞こえなくなった。  
 卵が腐った。

下は go のイメージ図です。go は「行く」→「出て行く」→「あったものがなくなる」と意味がひろがります。人が家から出て行ったら、家の中は空っぽになりますよね。この様に、英単語は「原因→結果」の意味の広がりをちゃんと考えるのが大切です。この go を「AはBになる」で使うと、「本来あった良い性質がなくなる」の意味になります。元々あった髪の毛、平常心、視力、聴力、良き性質がなくなってしまいうわけですね。



Her dream	came	true	again
The engine	came	alive	
A	=	B	

彼女の夢はついに叶った。

またエンジンがかかった。  
 逆に、良い状態になる場合には come を使うことが多い。夢が実現したりエンジンがかかったりすることは、うれしいことですよね。でも go は話題の中心から離れる、come は話題の中心へ近づくですから、いつも come が良い状況になるとは限らないようです。

The plane came apart in the air  
 飛行機が空中分解した。  
 This paint came off very easily  
 ネジがゆるんだ。  
 このペンキは簡単にハゲた。

0-5-5 「AはBになる」⑤ (A fall B) まるで落ちる様な変化

Minilla	fell	asleep
The students	fell	silent
We	fell	short of food
Tom	fell	in love with Jerry
A	=	B

when the teacher came in

ミニラは眠りに落ちた。  
 教師が入ってくると、生徒達は急に静かになった。  
 食料が不足してきた。  
 トムはジェリーに惚れてしまった。

まるで落ちる様にAがBになる場合には fall を使います。日本語でも「眠りに落ちる」「恋に落ちる」と言いますよね。short は「短い」→「目標に届かない」→「足りない」と意味が広がります。そこから、fall short of ~で「モノが不足している」「目標に達しない」「条件を満たしてはいない」などの表現で使います。

0-6 A=Bの仲間③ 「AはBの様に見える」  
 「AはBの様に見える」は、「AはBだ」と自信を持って断定しているのとは違い、曖昧な自信のない表現ですね。でも内容的には「AはBだ」と全く変わらないわけですから第2文型です。人間は自分の目で見、自分の耳で聞き、自分の頭で判断します。そうすると「見える」だけではなく「聞こえる」「感じる」「臭いがする」「味がする」も同じ仲間です。

0-6-1 「AはBの様に見える」

Godzilla	{ looks appears seems }	happy
A	=	B

ゴジラは幸せそうに見える。

僕らが何かを認識するとき、視覚に頼る割合が一番高い。だから「AはBの様に見える」の表現は豊富にある。3つともほぼ同じ意味で使われることもあるのですが、全く同じ内容を表現するならば、3つも必要はないはずですね。大体次の様な違いがあると考えてください。入試で問われることはありません。

- ・ look                   ゴジラは幸せそうに見える。実際にゴジラは幸せそうだ。
- ・ appear               ゴジラは幸せそうに見えるが、実際はそうではないかもしれない。
- ・ seem                   ゴジラは幸せそうに見える。私にはそう見える。

0-6-2 「AはBの様に聞こえる・臭いがする・味がする・感じられる」

The coffee	{ smells tastes feels }	good
His story	sounds	strange
A	=	B

このコーヒーはいい匂いがする。  
 このコーヒーはいい味がする。  
 このコーヒーは良いと思う。  
 彼の話はおかしい。

「匂いがする」「味がする」の訳語は良いのですが、feel や sound が「良い感じがする」や「おかしく聞こえる」とはなっていないのに注意してください。人間の認識というのは、色々な感覚器官を使って何が分かることですね。だから、「見える・聞こえる・味がする・匂いがする・感じる」は「目で見て分

「**か**る・**耳**で聞いて**分**かる・匂いを嗅いで**分**かる・**感**じて**分**かる」の意味なのです。訳語の中に「感じる」や「聞こえる」がなくても悪くはなく、逆にそう訳さない方がきれいですよね。

**解説** 感覚動詞って何？

僕らは生来備わっている五感を使って外からの刺激を感知し、色々な感覚を持ちますね。この感覚によって構成される認識全体を「知覚」と呼びます。簡単に言うと、さっき説明した様に、五感を使って「**分**かる」ことです。この様な知覚に関連する動詞を、知覚動詞とか感覚動詞と呼ぶようです。でも、人によってこの言葉の定義が曖昧で、混乱してしまうことがよくあります。文型の話をする場合には、大体次の様に定義されるのが普通です。

- 感覚動詞＝第2文型で用いられる五感を使う動詞
- 知覚動詞＝第5文型で用いられる五感を使う動詞

こう定義すると、例えば smell は第2文型でも第5文型でも使えるので、同じ smell が感覚動詞であると同時に知覚動詞でもあると言うおかしなことになってしまいます。

I	smelled	something	burning
主題	どうした	何が	どの様な

僕は何か焦っているのが臭いで分かった。

まだ第5文型は説明していませんから、上の例文は読み流しておいてください。第5文型を勉強した後でもう一度読み直せば良いでしょう。分類とは「分ける」ことですよね。何のために分けるのかと言えば、「分かる」ためです。つまり、分けることで僕は分かる様になる。ところが、この分けるが悪いとかえて分かりにくくなる。だから、わざわざ知覚動詞と感覚動詞とを分ける必要はない、と藪下は思います。ま、分けた方が分かり易ければそうしなさい。

でも、ここで大切なのは、同じ smell が第2文型でも第5文型でも使えることです。smellに限らず、ほとんどの動詞が色々な文型で使えます。英語が分かることは、同じ動詞を表現によって適切な文型をちゃんと選んで使えることです。ちょっと大げさですが、「英語は動詞に始まり動詞に終る」と言う人もいるくらいです。

これで「A=Bの仲間」の話はおしまいです。くどいようですが、be 動詞に置き換えてみましたか？実際にやってみることが大切です。一度は必ず自分の頭に電気を通しておいてください。

**0-7 主題は何？→それがどうした→何を**

「自己完結型の第1文型」、「運命型の第2文型」と話しを進めてきました。主題の行為や動作が他人に及ばない、自分で勝手にやっているのが第1文型で「自己完結型」。人間の根元的な存在に根ざし、人間の手ではどうしようもない状況を説明するのが第2文型で「運命型」。話しが主題以外の他者に及ぶことはないと言う点でこの2つは共通していました。さて、次は第3文型ですね。

Godzilla	loves	Minilla
Godzilla	knows	Gamera
Gamera	killed	Gyaos
主題	どうした	何を

ゴジラはミニラを愛してる。  
ゴジラはガメラを知っている。  
ガメラはギャオスをやっつけた。

第3文型で使う動詞は必ず他者にその影響が及びます。愛する行為は愛される他者なしでは成立せず、知っていると言う状態には知られる他者が必要です。だから、第3文型は「他者関連型」と言って良いでしょう。第3文型で使える動詞は、他者関連型だから「他動詞」だと覚えてください。

主題がやる行為や動作の影響を受けるものを「目的語」と呼んでいます。「その動作や行為が何を対象として行われるのか」、言い換えると「何を目的にして働きかけるのか」の意味で名付けられた用語でしょうが、これが結構分かりづらい。「目的」と聞くと、どうしても「何の為に」を思い浮かべてしまう。ましてや目的語が単純に行為の対象であるとは限らない。

Minilla	(will) dig	a hole	in the garden
Godzilla	lived	a happy life	
Gamera	watered	the garden	
主題	どうした	何を	

ミニラは庭に穴を掘るつもりだ。  
ゴジラは幸せな生活を送った。

ガメラは庭に水をまいた。

「穴」は、「掘る」という動作の**結果**であって**対象**ではない。「掘る」という動作の対象は「地面」のはずですよ。「幸せな人生」は「送る」の**状況**説明であって**対象**ではない。また、「撒(ま)く」の対象は「水」であって「庭」ではない。いや、waterは「水を撒く」の意味なのだから、動作の対象がwaterの中にすでに含まれている。ね、「目的語は、行為や動作の**対象**である」は説明になってないでしょ。

さて、第3文型の見取図は「主題→それがどうした→何を」になってますね。「目的語」の代わりに「何を」が使われてます。これで十分間に合います。「掘る→(何を?)→穴を」、「送る→(何を?)→幸せな生活を」。ね、上手く行くでしょ。場合によっては「水を撒く→(何に?)→庭に」となりますが、「何を」は共通してますよね。でも、ほとんどは「何を」で上手く行きます。

Minilla	turned on	the television
Godzilla	(couldn't) put up with	the noisy sound
Gyaos	made a fool of	Gamella
主題	どうした	何を

ミニラはテレビをつけた。  
ゴジラはそのうるさい音を我慢することができなかった。  
ギャオスはガメラをバカにした。

前に、第1文型のところで「動詞は1語だけとは限らない。場合によっては2語以上になることもある。意味のかたまりをざっくりと大きく区切るのがコツ」と書きました。ここでもまったく同じことが言えます。この例文の動詞は2~4語から成り立ってますね。2つ以上の語が集まって1つの動詞と同じ働きをするものを「句動詞」だとか「群動詞」などと呼びます。句動詞を括(くく)るときは、大らかに括ってください。

0-8 主題は何?→それがどうした→誰に→何を  
第4文型で使う動詞も**他者**にその影響が及びます。だから、第3文型と同様、「**他者関連型**」です。よく見ると「主題→どうした→誰に→何を」の中に「何を」がちゃんと入ってますね。じゃあ、何が第3文型の動詞と違うのかというと、見ての通り「誰に」と言う新しい要素が付け加わっていることですね。この文型、誰かに何かをあげる場合に使うので、「**授与動詞**」などと呼ばれることがあります。卒業証書をあげるなら「授与」でも良いのですが、ありとあらゆるモノをあげるのに使えるのですから、このネーミングには少々難がありますね。

She	showed	me	the way to the station
Godzilla	gave	Gamera	a hard punch
He	called	me	a taxi
主題	どうした	誰に	何を

彼女は僕に駅までの道を教えてくれた。  
ゴジラはガメラにハードパンチを食らわせた。  
彼はあたしにタクシーを呼んでくれた。

上の例文でもおわかりの通り、あげるものは卒業証書のような「形のある物」ばかりではなく、頭の中の知識であったり、パンチであったり、タクシーの手配であったりします。

**他者関連型**である第4文型は、「誰に」の要素が付け加わってはいますが、同じく**他者関連型**の第3文型と密接に関係しています。実際に、第4文型は第3文型でも表現することができます。

She	showed	the way to the station	→
Godzilla	gave	a hard punch	to me
He	called	a taxi	to Gamera
主題	どうした	何を	for me
			副詞

前置詞 to や for は「**指さす前置詞**」と覚えてください。だから見取図には「→」が書いてあります。**指さす前置詞**は全部でたった3つしかありません。

指さす前置詞 { at ; 一点を指さす  
for ; ここにないモノ、欲しいモノを指さす  
to ; 運動の方向を指さす

to は目に見える**モノ**が動いて行く方向を指すだけではなく、目に見えない**知識**や**物語**などが誰に対して投げかけられたのかも表現します。ここでは、モノや知識や物語が自分から相手に移動してゆくわけですから、数下は「**移動の to**」と呼んでいます。

for は「ここにないモノ・欲しいモノ」→「大切なモノ」と意味が広がり、ここでは「大切な人のために」くらいの意味になってます。大切な人を指さす for を数下は「**やさしさの for**」と呼んでいます。

at はここには出てきませんが、ついでに覚えておいてください。「一点を指す」→「一点集中のものすごいエネルギー」→「時には敵意」と意味が広がります。

見取図の右にはみ出した前置詞の種類によって、第4文型で使える動詞は2つに分類するのが一般的です。

第4文型の動詞	あげる系（もらう相手がいないと成り立たない動詞）	give型	移動の to
	してあげる系（本来自分のためにやる事が相手に向いた動詞）	buy型	やさしさの for

### 0-8-1 あげる系 (give型)

I	gave	her	a job
I	offered	her	a job
My father	provided	me	some money
My father	supplied	me	some money
主題	どうした	誰に	何を

僕は彼女に仕事を与えた。  
僕は彼女に仕事を紹介した。  
父は僕にお金を準備してくれた。  
父は僕にお金を補充してくれた。

この4つの動詞は「あげる系」と藪下が授業で言っているものです。第3文型を使って書き換えたとき、「to+誰に」になるのが特徴です。ちょっと難しい単語もありますが、どれも必修動詞ですから覚えておいてください。

- { give 与えたモノが実際に相手の手に入る
- { offer 「あげようか？」と相手にモノを勧めはするが、相手が実際にそれを受け取るかどうかは不明
- { provide この先それが必要だと予見し、予め相手に与えておく
- { supply 不足分を相手に与えて補う

「pro」は「プロペラ回すと前に進む」、「vide」は「ビデオ(video)」と同語源で「見る」の意味です。そこから provide は「前もって先を見越しておく」→「準備しておく」→「備え付ける」→「提供する」と意味が広がる。

supply の名詞形がサプリメント (supplement)。健康食品ブームも手伝って、最近この言葉をよく耳にする。これは不足しがちな栄養を補充するためのもの。だから supply の原義は「不足分を与え補う」です。では、上の4つの英文を第3文型を使って表現してみます。

I	gave	a job	to her
I	offered	a job	to her
My father	provided	some money	to me
My father	supplied	some money	to me
主題	どうした	何を	to+誰に

この時に、見取り図の右にはみ出した副詞が確かに「to+誰に」になってますね。「あげる系」の他動詞は、基本的に「誰に」と「何を」の2つが必要です。だから、第4文型で表現する場合は「誰に」が、第3文型で表現する場合は「to+誰に」がないと正しい英文にはなりません。だから、次の様な英語は書いてはいけません。

I gave a job.	僕は仕事を与えた？
I lent the money.	僕はそのお金を貸した？
He sent a nice present.	彼はすてきなプレゼントを送った？
He told the news.	彼はその知らせを伝えた？
She promised the money.	彼女はその金を支払うと約束した？

と言うことは、「あげる系」の他動詞は、基本的にもらう相手がいないと成り立たない。だから、モノや知識や物語が誰に移動して行くのかを to を使って指さすだけで間に合うわけです。

**解説** tellは「誰に」や「何を」がなくても良いのでは？

そうですね。会話文では「誰に」や「何を」がなくても対話文として成り立つ場合が多くあります。これは、「誰に」や「何を」を話し手達が十分了解しているので、わざわざ言う必要がない場合に起こります。例えば次の様な場合です。

A: Hey, do you know why that happened?

B: I know, but I won't tell [you why that happened].

A: You're mean!

↑この部分の省略は可能です

A: ねえ、どうしてそうなったの？

B: 知ってるけど、教えてあげない。

A: ケチね！

でも、肝心なことは「誰に」や「何を」は文が成立するために必要な要素なのだけれど**無くても分かる**、と言うことです。決して**無くても良いわけではない**。tell以外にも、普段頻繁に使う「あげる系」の他動詞ならば同じ事が起こります。

**解説** 「あげる系」はこれだけ？

まだまだたくさんあります。ちょっと乱暴ですが、5つに分類すると次の様になります。

「あげる」= give, offer, provide, supply, do

「貸す」= lend, loan, rent

「送る」= send, hand, pass, write, throw

「伝える」= tell, teach, read, show

「支払う」= pay, promise

「誰かに何かを貸す」、「誰かに何かを送る」、「誰かに何かを教える」等々、一度は辞書を引いて例文の1つもメモっておいてください。特に、色の付いたdoは絶対に調べておくこと！

### 0-8-2 本来自分のためにやる事が相手のために向いた動詞 (buy型)

He	bought	me	a nice guitar
She	got	me	a chair
Mother	saved	me	some candy
主題	どうした	誰に	何を

彼はあたしに立派なギターを買ってくれた。

彼女は僕にイスを持ってきてくれた。

母はあたしにキャンディーを残しておいてくれた。

ここで扱う動詞は、藪下が「**してあげる系**」と呼んでいるものです。第3文型を使って書き換えたとき、「for+誰に」になるのが特徴です。「**あげる系**」は第3文型を使って書き換えた場合、「to+誰に」がないと文が成り立ちませんでした。なぜなら、「**あげる系**」はもらう相手がいないとできない動作だからです。一方、「**してあげる系**」は元々自分のためにやることなのだから、「for+誰に」がなくても文が成り立ちます。

He	bought	a nice dress
She	got	a chair
Mother	saved	some candy
主題	どうした	何を

彼は立派なギターを（自分のために）買った。

彼女はイスを（自分のために）持ってきた。

母はキャンディーを（自分のために）残しておいた。

訳語にはそれぞれ「自分のために」が隠れているわけですね。この様に本来は自分のためにやる事が相手のために向けられるのだから、「やさしさのfor」なわけです。

He	bought	a nice dress	for me
She	got	a chair	for me
Mother	saved	some candy	for me
主題	どうした	何を	

**解説** 「してあげる系」はこれだけ？

3つに分類しておきます。これも辞書で例文をチェックしておくこと。

「作ってあげる」= make, cook, prepare

「取ってあげる」= get, reach, save, order, call

「見つけてあげる」= find

0-8-3 あげるのではなく、相手から何かを奪う動詞 (ask 型)

May	I	ask	you	a favor	?
	主題	どうした	誰から	何を	

お願いがあるのですが。

疑問文は見取図にできません。なぜなら、疑問文は肯定文の語順を変えることで出来上がるのだから、初めから語順異常を起こしているの見取図にはできないわけです。今後、疑問文は肯定文に戻した英語を見取図化することにしますが、ここでは説明の都合上特別に疑問文のまま見取図にしました。

さて、第4文型は「あげる系」にしる「してあげる系」にしる、色んなモノが自分から誰かに手渡ったわけですね。でも、ここで扱う ask は今までとは逆に、誰かから何かを奪うこととなります。だから、見取図は「誰に→何を」ではなく「誰から→何を」になってます。favor は「助力・手助け」の意味の名詞です。原義に忠実に訳出すると「主題 I は you から助力を奪い取る」となります。あげる系、してあげる系に対して、これを「奪う系」とでも呼ぶことにしましょう。

同じように第3文型を使って表現してみます。今度は「of+誰から」になっているのが分かりますね。

May	I	ask	a favor	of you ?
	主題	どうした	何を	

前置詞 of は off の家族語で「～から引き離す・奪い取る」が原義です。だから矢印が逆を向いています。

**解説** Will you do me a favor? も「お願いがあるのですが」じゃないの？  
この質問が出てくると言うことは、「あげる系」の所でちゃんと do を調べたわけですね。

Will	you	do	me	a favor
	主題	どうした	誰に	何を

May	I	ask	you	a favor
	主題	どうした	誰から	何を

do は「あげる系」、ask は「奪う系」です。それを意識して次の訳語を見てください。  
助力・手助けを僕に与える気はありますか？  
助力・手助けを君から奪ってもよいですか？

「助力・手助け」が「君から僕に行く」のか、「僕が君から奪う」のかの違いですね。でも、言いたいことは同じです。両方とも「お願いがあるのですが」の訳語が当てはまります。

**解説** 「奪う系」は他にはないの？  
第4文型は「誰から→何を」、第3文型にすると「何を of+誰から」のタイプは ask だけです。でも、第4文型だけで使える「奪う系」がいくつかあります。  
「金・時間・労力を奪う」= cost  
「時間・労力を奪う」= take  
「負担を奪う」= save  
これは例をあげておきましょう。

The book	cost	me	1000 yen
The book	took	me	two years to read
Computers	save	us	a lot of energy
主題	どうした	誰から	何を

この本は僕から1000円を奪っていった。  
この本は読むのに僕から2年の時間を奪った。  
コンピュータは僕らから多くの労力を奪ってくれる。

訳語は動詞の原義に忠実につけておきました。自分で普段使う日本語にしておいてください。上に書いた様に、この3つは第3文型では表現できません。そして、この3つは動詞直後の語順を問う問題として頻出です。ちゃんと覚えておくこと！

0-8-4 第4文型崩(くず)れに注意!

第4文型は、基本的に「誰に→何を」と覚えておけば良いのですが、「誰に」や「何を」の前に前置詞がひっつく場合があります。これを「第4文型崩れ」と呼びます。「誰に→何を」の形がちょっと崩れてしまっているからです。崩れるパターンは次の4つです。

- ・ to 誰に→何を
- ・ 誰に→ of 何を
- ・ 誰に→ with 何を
- ・ 誰から→ of 何を

これについては別の講義で扱います。ここでは第4文型のパターン「誰に→何を」がちょっと崩れてしまうことがある、とだけ覚えておいてください。

0-9 主題は何?→それがどうした→何を→どの様に  
この第5文型は日常生活の中での使用頻度が一番低いのですが、入試問題の出題頻度が一番高い。ですから、ここで出題パターンを全部説明するのは避けて、サラリと流すことにします。

He	(always) makes	me	happy
We	think	him	a great pianist
主題	どうした	何を	どの様に
I	(won't) let	you	go
She	heard	him	singin a song
主題	どうした	何が	どの様にするのを

彼はいつもあたしを幸せな気分にしてくれる。  
 僕らは彼のことを偉大なピアニストだと思っている。  
 僕は君を離さないよ(←あなたが行くことを僕はさせない)。  
 彼が歌を歌っているのを彼女は耳にした。

第5文型で使う動詞は、少々乱暴ですが次の4つに分類することができます。

- ・ 何を→どの様に**する**
- ・ 何を→どの様に**思う**
- ・ 何に→どの様なことを**させる**(使役動詞)
- ・ 何が→どの様なことを**するのを見る**(知覚動詞)

見取図を見ると、「何を」「何に」「何が」と助詞がちょっとフラついていますがね。同じように「どの様に」「どの様なことを」と一定しません。ま、固いことは言わない。「何」「どの様に」に変化はありません。臨機応変に一番ぴったりの表現を割り振ってください。

文の構成要素に「何を」があるので、第5文型で使う動詞もやっぱり**他者関連型の他動詞**です。動詞の影響が**他者**に及ぶわけですね。言い換えると、される相手、思われる相手、させられる相手、見られる相手が必要だと言うことです。

使役動詞と知覚動詞は第1講の中で説明します。そちらを参照してみてください。ここでは「何を→どの様に**する**」「何を→どの様に**思う・考える**」の例文を挙げておくことにします。ちゃんと頭に電気を通しておいてください。

0-9-1 何を→どの様に**する**

He	makes	me	happy
We	named	our dog	Luck
The news	turned	her	pale
She	left	the window	open
Mother	painted	the wall	white
主題	どうした	何を	どの様に

彼は私を幸せな気分にする。(彼といるとあたしは幸せな気分になる)  
 僕らは家の犬をラックと名付けた。  
 その知らせは彼女を青ざめさせた。(その知らせを聞いて彼女は青ざめた)  
 彼女はその窓を開いたままにしておいた。  
 母はその壁を白色にした。(母はその壁を白く塗った)

**解説** turn と leave の考え方

turn には「方向が**変わる**」と「方向を**変える**」の2つの意味があります。自分で勝手に**変わる**のは**自動詞**で、第2文型の所の「A turn B」で登場しました。一方、**変える**は「何を」が必要なので**他動詞**。ここでは「**変える**→何を→どの様に」の第5文型で使っているわけです。leave は多義語です。下の絵を見て leave の基本的意味を3つ覚えておいてください。



机の上のモノはあまり気にしないでください。多義語を考えると役に立つのが「原因→結果」の意味の広がりです。一見するとまったく関連性のない様な語義が「原因→結果」の枠で括（くく）ると不思議なことに1つのストーリーの中でつながります。ここでは、①「家を離れる」が原因となり、②「机の上はそのまましておく」③「嫁さん家に残しておく」がその結果の状況なわけです。

0-9-2 何を→どの様に思う・考える

We	{ think take consider believe hold }	him	a scholar
主題	どうした	何を	どの様に

僕らは彼のことを学者だと思っている。

**解説** think 以外も全部「思う」でいいの？

take は「彼の言ったことを言葉通りに受け取っていた」なんて言いますね。「受け取る」→「解釈する」→「思う」と語義が広がったわけです。consider には「親が人の日記を読むなんて監視だと思ふ」の連想記憶術があります。前半は好きなストーリーを自分で作ってください。believe は「信じる」でも良いのですが、これでは語義としては強すぎます。「良いと思ふ」とか「確かにそう思ふ」くらいのもっと軽い意味だと考えて方が良いでしょう。hold は「手に持つ」が原義です。そこから「考え・主張を持つ」→「思う」と意味が広がった。この5つは必ず覚えておいてください。

0-9-3 第5文型崩れに注意！

第4文型と同じ様に、第5文型にも変則的な表現がいくつかあります。文法書によってはこれを第5文型には分類せず、新しい文型をわざわざ作って話しを複雑にしています。ま、分けた方が分かり易ければそれも良いでしょう。藪下にはそうは思えませんがね。例えば、次の様な英文も第5文型だと考えて差し支えない。わざわざ「VO+to do」だの「VO+as～」とするとかえって分かりづらい。

I	{ wanted told allowed recommended forced }	you	to go there
主題	どうした	何に	どの様なことを

僕は君にそこへ行って欲しかった。  
僕は君にそこへ行けと言った。  
僕は君がそこへ行くことを許可した。  
僕は君がそこへ行くことを勧めた。  
僕は君をそこへ無理矢理行かせた。

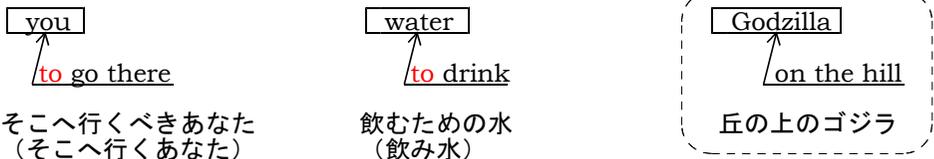
We	{ think of take consider look on regard }	him	as a scholar
主題	どうした	何を	どの様に

僕らは彼のことを学者だと思っている。

「何を→どの様に思う・考える」は0-9-2の例文と合わせて10コ全部覚えておいてください。  
take と consider はどちらでも使えるわけですから、正確にはたった8コですね。

**解説** こんなにいつぺんに覚えられないよ！  
はいはい、今は藪下がガイドしますが、いずれは自分でやれるようにならなくてははいけません。  
want は「何が欲しいのか」→「何にどの様なことをして欲しいのか」と意味が広がっただけですね。  
tell も「言う」→「命令して言う」だから難しくない。allow には「風呂でパンツ洗うのを許す」、  
recommend には「離婚面倒、和解を勧める」の連想記憶術があります。force は名詞で「力」ですね。それが動詞化すると「力づくでさせる」の意味になります。

**解説** to go there の to って何？  
「どの様なことを」の所にある to go there は you の状況を説明している形容詞です。ちょっと乱暴ですが、you to go there だけを無理して訳出すると「そこへ行くあなた」となります。



そこへ行くべきあなた  
(そこへ行くあなた)

飲むための水  
(飲み水)

丘の上のゴジラ

2語以上の長い飾りに適応される「E Tの法則」を覚えてますか？2語以上の長い飾りは名詞の前じゃなく後ろに付きましたね。この to は中学校の時に習った不定詞の形容詞用法です。見取図にするとこんな風になります。覚えておいてください。

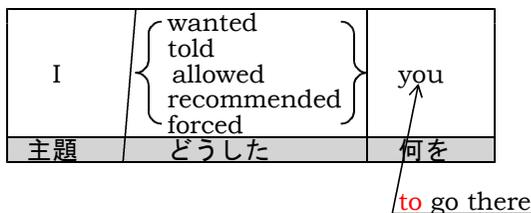
さて、「そこへ行くあなた」を使って上の例文群を訳し直すと次の様になります。

- 僕はそこへ行ってくれるあなたが欲しかった。
- 僕はそこへ行くべきあなたを言葉で納得させた。
- 僕はそこへ行くつもりあなたを許可した。
- 僕はそこへ行くあなたを推奨する。
- 僕はそこへ行くあなたを無理強(じ)いした。

多少(大いに?)違和感があるかも知れませんが、一見すると言葉のトリックの様にも受け取れます。でもこの訳語が原義に近い。例えば、tell は「ある内容を言葉にして相手に伝える」が原義です。そして、その内容を相手が納得したり理解したりすることも tell の中に含まれます。だから医者(い)が患者(に)にあし(ろ)、こう(し)ろと(言)う場合も tell を使います。

The doctor told me not to drink.  
医者は僕に禁酒すべきことを納得させた。

見方を変えると、これらは第5文型ではなく第3文型だとも考えられるわけです。



## 0-10 瀕死の品詞

何かを分類しようとする場合、種分けのレベルが揃（そろ）っていないと普通は分類する意味がありません。例えば、キャベツ、白菜、青梗菜（ちんげんさい）、野沢菜と言う並びは、葉茎菜類（葉や茎を食べるもの）と言う同一レベルのインデックス（指標・項目）で括（くく）った分類。どうひっくり返っても、「キャベツ+白菜=青梗菜」なんてことは起こらない。ところが、種分けのレベルがバラバラだと野菜の様には行かなくなる。例えば、「翻訳家、起業家、読書家、理想家」と言うのがそうです。4つとも同じ「～家」の形はしていますが共通項はそれだけ。翻訳家は職業名なのに対して、起業家は行為による種別。読書家は嗜好で、理想家は行動規範でそれぞれ種分けされています。だから読書好きで、いつも理想を追い求めている起業家が翻訳者であることも可能なのです。つまり、「読書家+理想家+起業家=翻訳者」なんて等式も成り立つわけです。

英文法に出てくる8つの品詞も、実は種分けのレベルにバラツキがある好例なのです。一見すると、どれも「～詞」の形をしているので、野菜の分類と同じじゃないかと思うのですが、実際には翻訳家の方。つまり品詞なんて、分類としてはほとんど使い物にならない状況、言い換えると瀕死の状況なのです。

まずは8つの品詞を簡単に定義しておきましょう。

1. 名詞 = 目に見える人や物、目に見えない事柄に付いた名前
2. 代名詞 = 名詞の代用
3. 形容詞 = 名詞、代名詞を飾る
4. 動詞 = 主題の動作や状態を表現したもの
5. 副詞 = 動詞、形容詞、副詞、名詞、句、節、文を飾る
6. 前置詞 = 名詞の前に置く詞（ことば）
7. 接続詞 = 語、句、節をつなぎ語
8. 間投詞 = 「ワー、ギャー、ウヘッ、おっと」

間投詞は文の表情を豊かにはしてくれますが、入試では絶対に問われることがないので削除。残りの7つを考えることにします。まず、他に依存せずそれだけで存在することができる（自己独立型）のは、「名詞」と「動詞」だけ。残りは青色の部分を見てもらったら分かる様に、何かの代用だったり、何かを飾っていたり、何かを結んでいたりするわけだから、それだけでは存在することができない（他者依存型）。

この8つは、上の野菜の様に同一レベルのインデックスで分類されている訳じゃない。だから、「キャベツ+白菜=青梗菜」なんてことが起こってくるのです。

### 0-10-1 「前置詞+名詞=形容詞・副詞」

「前置詞+名詞」は形容詞にもなり、副詞にもなる。

機能によって分類されたものは「」「」「」

School	is	over
A	=	B

（文の構成要素と品詞）ここでは、品詞と言う観点から英語の5つの文型をもう一度見直します。5文型を表現するのに使った

今までの説明の中にも「名詞」「動詞」「副詞」「形容詞」「前置詞」などの品詞が登場しましたね。これを文型に当てはめると次の様な図になります。

×

She	/	smiled	sweetly
名詞	/	動詞	副詞

「主題」になれるのは「名詞」です。「名詞」と言っても、She や Mr. Smith の様な 1 語の名詞ばかりではありません。「名詞」の中には、2 語以上がまとまって 1 つの名詞の働きをする名詞句や名詞節も含まれます。

5 つの文型ごとに説明する必要はない！ やり直し！

The birds	/	sang	merrily
-----------	---	------	---------

その木に留（と）まっている鳥たちは  
優しい声で啼（な）いた。

*in the tree*

→ in the tree は birds を飾る形容詞。

The birds	/	sang	merrily
-----------	---	------	---------

鳥たちはその木に留まって優しい声で  
啼いていた。

*in the tree*

→ 同じ語句が副詞として用いられている。

The boy was *in* the room with me.  
The boy was *in* with me.  
その少年は僕と一緒にその部屋の中にいた。  
その少年は僕と一緒に中にいた。

「前置詞＋名詞」か「動詞＋副詞」か？  
同じ in が 2 通りに解釈される愚！

I'll get it *over* soon.  
I'll get *over* it soon.  
もうすぐそれを終わらせるつもりだ。  
もうすぐそれから立ち直れるだろう。

「他動詞＋副詞」か「自動詞＋前置詞」か？  
同じ over が 2 通り解釈される愚！

I am fond of music.  
I am far from the

副詞	主題 / どうした	副詞
	.....	

混乱に秩序を与えるのが分類です。何かを分類しようとするとき、分類のための基準を決めなくてはいけない。そうしないと相変わらず無秩序のまま、分ける意味がない。言葉を分類するときに役立つような基準は大体次の4つです。

- ・形
- ・機能
- ・意味
- ・位置

0-11 文が長くなる仕組み